

授業科目 小児発声発語障害学演習

【担当教員名】 大湊 麗		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
○	○	○	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 機能性・器質性構音障害の評価、診断、治療を修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 機能性・器質性構音障害の評価を実施できる。 2. 機能性・器質性構音障害の診断を実施できる。 3. 機能性・器質性構音障害の治療を実施できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	機能性構音障害の評価、症例検討			1	演習
2	機能性構音障害の評価、症例検討			1	演習
3	機能性構音障害の診断、症例検討			2	演習
4	機能性構音障害の診断、症例検討			2	演習
5	機能性構音障害の治療、症例検討			3	演習
6	機能性構音障害の治療、症例検討			3	演習
7	機能性構音障害のまとめ			1-3	演習
8	器質性構音障害の評価、症例検討			1	演習
9	器質性構音障害の評価、症例検討			1	演習
10	器質性構音障害の診断、症例検討			2	演習
11	器質性構音障害の診断、症例検討			2	演習
12	器質性構音障害の治療、症例検討			3	演習
13	器質性構音障害の治療、症例検討			3	演習
14	器質性構音障害のまとめ			1-3	演習
15	全体のまとめ			1-3	演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		改訂機能性構音障害（言語聴覚療法シリーズ7）	本間慎治	建帛社	2007・2,500円＋税
		器質性構音障害（言語聴覚療法シリーズ8）	斉藤裕恵	建帛社	2002・2,600円＋税
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 試験、レポート		【履修上の留意点】			